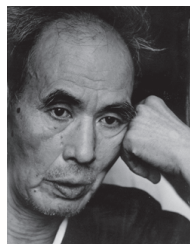


中山義秀文学碑

～それぞれの文学碑を訪ねてみましょう～



なかやまぎしゅう

中山義秀

岩瀬郡大屋村出身（現：白河市大信）
金透小学校・安積中学校（現・安積高校）に学ぶ。
早稲田大学を卒業後、『厚物咲』で第7回芥川賞を受賞。郡山を舞台にした『残照』や県内を舞台にした作品が多い。

郡山市

2001年建立

芸術は

気品なり

また
人生も亦しかり

文学の森資料館の庭園内にある義秀の文学碑は、母校安積中学校の同窓会である安積桑野会が、義秀生誕100年を記念して建立した。義秀の好きだった言葉を直筆色紙を基に制作したものである。



須賀川市

1962年建立

山間の小さな

城下町に

初秋の風のおとづれを
聞くやうになった

長沼字日高見山

長沼城跡



長沼は中山家の先祖累代の地である。中山家は、代々陣屋務めをしていた。代表作『碑』は、幕末期の動乱に揺れた中山家の様子をモデルに書かれた。文学碑には、「碑」の一節が刻まれている。

二本松市

2001年建立

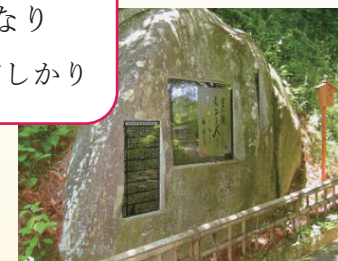
芸術は

気品なり

人生も亦しかり

観音丘陵遊歩道

中山義秀文学碑建立委員会建立



義秀は小学4年生の時、二本松町（現・二本松市）へ引っ越した。二本松に居を構えた頃、父の薪炭商が軌道にのり、一家の生活は安定する。「仇し野」「信夫の鷹」など二本松を舞台にした傑作を残している。

裏磐梯

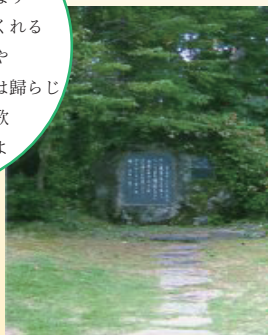
1956年建立
1984年副碑完成

裏磐梯にて歌へる

こは我等が思ひ出の宿なり
なかば夢見心地の時ぞおくれる
再来の日ありやなしや
よしあらうとても過ぎし日は歸らじ
かたみにかはす愛の歌
時に古りゆく悲しさよ

「裏磐梯高原ホテル」前

耶麻郡北塩原村檜原湯平山 1171



裏磐梯の温泉地は、義秀の死別した妻、会津坂下出身赤田トシとの出合の地である。「電光」「裏磐梯」にその時の様子が描かれている。「裏磐梯」の中で義秀がよんだ詩が文学碑にもなっている。

白河市大信村

1971年建立

中山義秀先生誕生之地

般若坂の碑

大信下小屋
日籠



現在、大信村には中山義秀記念文学館がある。

千葉県

1971年建立

野の花にも
美しさはある

成田山公園内
書道美術館近く
成田市成田 640

義秀は大正15年、成田中学校（現：成田高等学校）で英語教師として職を得て、生活を安定させた。文学碑はかつての教え子達によって建てられたものである。

和歌山県

1964年建立

在りし日の
かたみともなれ
かげらふ塚

なかやま義秀
すみ

奥の院参道 敦盛墓の手前
伊都郡高野町高野山

52歳の時に一人で高野山を訪れ、三宝院に滞在して「高野詣」を執筆し、住職の草繫全弘と親交を深めた。中山夫妻没後に、先妻の娘が高野山に来て、義秀と澄女の遺骨を塚下に埋葬した。

この他に文学碑がありましたら、ぜひ文学の森資料館に情報をお寄せください。